

第5章 大綱・基本方針

5-1 大綱（基本理念）

史跡大安寺旧境内は、平城京第一の官寺の遺構・遺物が良好に残り、わが国古代史上の重要な価値を有する国民共有の財産であることから、現在に受け継がれている本質的価値を保存・継承していくことを大前提とする。

1. 大安寺は、舒明天皇の発願による百済大寺の建立以後、勅願寺と大塔の歴史を受け継ぎ、ともに藤原京から移された薬師寺と並ぶ二大官寺の一つである。平城京において留学僧・渡来僧が多く止住する国際色の豊かさと、仏教の教学研究が盛んな学問寺院として隆盛を誇ったが、中世以降は南都のいくつかの寺院とともに「その衰滅するところ、紹隆するの力なし」と表現されるほど寺勢が衰えてしまう⁷⁾。伽藍地は宅地や生産地化していき、やがてそこには郷が形成され、居住、生産、信仰などの暮らしの場として利用されながら現在に至っている。この住民生活と共生・共存してきたという独自の歴史性こそが大安寺旧境内の独特の価値を形成している。この視点から、史跡の保存と地域住民等の暮らしとの調和を図り、「暮らしとともに生き続ける遺跡」として保存・活用を図る。
2. 史跡大安寺旧境内に関する発掘調査と研究を継続して行うことにより、史跡大安寺旧境内の価値をより一層明らかにすることに努め、価値の保存や活用にあたっての基礎資料とする。
3. 八条・大安寺周辺地区のまちづくりと連携し、交流や学びなどの地域資源としての活用がこれまで以上に求められるなかで、史跡大安寺旧境内の価値を分かりやすく伝えることができる整備を推進する。
4. 史跡の保存・活用は将来にわたって継続的に取り組む必要があることから、史跡の保存・活用の担い手を確保・育成するとともに、地域住民等をはじめとした関係主体との連携・協力体制を構築し、持続的な保存・活用の取組を進める。
5. 以上を踏まえ、「本質的価値の未来への確実な保存」、「魅力の向上と交流・学びの拠点としての活用」、「価値の保存を前提とした効果的な活用のための整備」、「主体間の連携強化と官民協働による持続的な管理・運営」により、持続的な保存・活用へとつなげていくことを目指す。

上記の点を踏まえ、史跡大安寺旧境内の保存・活用の大綱（基本理念）を「暮らしとともに生き続け、交流と学びを通じて豊かなひとと地域を育む 大安寺旧境内」と定める。

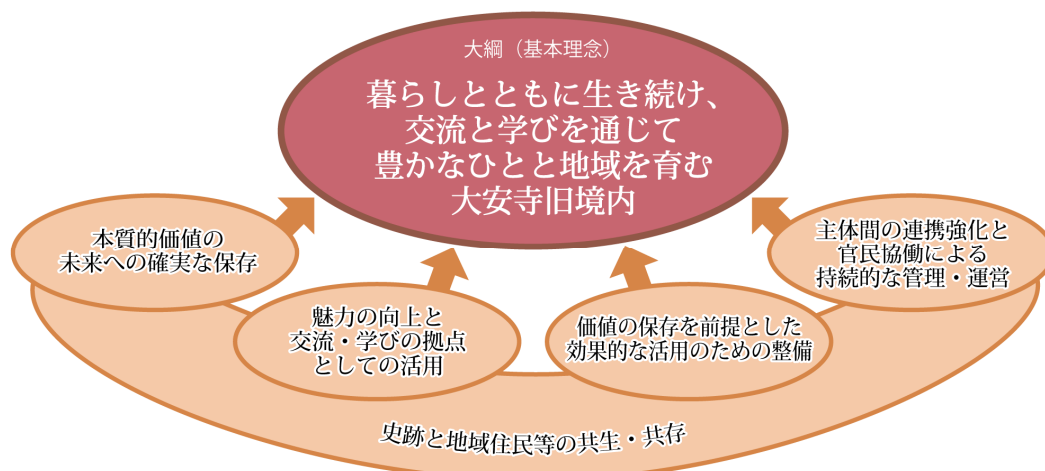


図 5- 1 大綱（基本理念）

⁷⁾ 嘉禄3年（1227）の官宣旨に引く法隆寺別当範円の解状

5－2 基本方針

（１）保存

～ 史跡大安寺旧境内の本質的価値を未来へと確実に保存する ～

史跡大安寺旧境内は、大安寺式伽藍の特徴である二基の塔を囲む塔院全域が良好に残るなど、わが国古代史上の重要な価値を有する歴史文化資源である。この平城京第一の官寺の遺構や遺物を未来へと確実に保存・継承する。

（２）活用

～ 史跡大安寺旧境内の魅力を高め、交流・学びの拠点として活用する ～

往時の大安寺は異国の僧や気鋭の学僧が止住し、発掘調査で出土した遺物からも国際色豊かな寺院であったことが知られる。今後も継続的な調査を行い、このような史跡大安寺旧境内の顕在・潜在する価値を引き出して魅力の向上を図るとともに、人と人との交流や学びの拠点として、まちづくりや観光振興などに効果的に活用して地域活力の向上を図る。

（３）整備

～ 史跡大安寺旧境内の価値の保存を前提とした効果的な活用のための整備を行う ～

史跡大安寺旧境内には東西両塔の基壇や『資財帳』に「池并岳」と記される杉山古墳をはじめとした他に類をみない貴重な遺構が良好に保存されている。これらの遺構を恒久的に保存するとともに、遺跡の価値を分かりやすく伝え、効果的に活用していくため、両者の調和に十分に注意した手法、仕様等を検討して整備を行う。

（４）管理・運営

～ 主体間の連携強化と官民協働による持続的な管理・運営を行う ～

行政、地域住民等、専門家だけでなく、「寧楽考古楽倶楽部」をはじめとした活動団体や観光客などの地域外の人々も含めた関係するさまざまな主体との連携の強化を図り、保存・活用の担い手の育成や官民協働の管理・運営体制づくりを通じて、将来にわたって持続的な管理・運営を行う。

（５）共生・共存

～ 史跡と地域住民等の共生・共存を図る ～

大安寺は中世以降、寺勢の衰えとともに寺地が次第に宅地や耕作地などへと変わっていき、そこに住民の生活が展開した。史跡の保存や管理・運営していくにあたっては、現在にまで続くこの歴史性を尊重しながら、史跡大安寺旧境内の保護・継承と住民生活との共生・共存を図ることが必要である。